

農業振興公社だより

あけましておめでとうございませす



理事長
大友 喜助

【新年のご挨拶】
会員の皆様にはつつがなく平成二十九年の新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

公社の事業運営に対し日頃より格別のご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

昨年は、八月、九月と立て続けに台風が上陸し、とりわけ岩手県北海道に甚大な被害をもたらしました。幸い、角田市においては、

水稲をはじめ豆、果樹等において被害も少なく済みました。水稲の作柄は、青森県を除く東北五県で「平年並み」となりまた米の概算金も二年連続で引き上げになりました。

そつした喜びの中、一方で米の直接支払交付金が二十九年度まで中止となりますし、全国的な共通問題として、農業の担い手不足

や、耕作放棄地の増加など喫緊の課題が山積しています。角田市ではこのような問題を解消するため現在十四の、農業法人化が設立され効率化を図り、耕作放棄地等の解消に努め、また耕作面積の集積を行っております。今後の大きな課題は、作業効率を一層図るための面的集積が急務と考え、今まで以上に取り組を進めて参りますので皆様のご理解とご協力を、お願い申し上げます。

結びに、皆様のご健勝と益々のご活躍をご祈念申し上げ、新年にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

視察研修開く 角田市農業機械銀行

角田市農業機械銀行（理事長 菊地勝治）では、会員の技術向上を目指すため二年に一回開催している視察研修を、八月二十四日、二十五日の一泊二日で開催し、二十名が参加しました。

視察研修の二日目に、平成二十二年三月に法人化し、秋田県横手市で、水稲、大豆、そば・枝豆等

◆ 発行 ◆

（公社）角田市農業振興公社
〒981-1505 宮城県角田市角田字大坊四一
電話 (0224) 63-1328
FAX (0224) 61-1511
URL <http://www.kakunou.or.jp/>

E-mail kakuda@kakunou.or.jp

を作付け、経営面積56.5ha、そば作業受託（夏・秋）140ha大豆乾燥調整150tを行って

いる農事組合法人「きずな」を視察しました。

カメフラリポート

① 齊藤代表理事より、これまでの経緯や法人の現状、苦勞話や今後の活動方針について、熱心に耳を傾けていました。

多くの参加者が活発に質問をだし齊藤代表理事も真剣に答えただき、今後の機械銀行の運営及び農家経営に大変参考になりました



△熱心に耳を傾ける機械銀行会員

② 実際に施設や機械を見せて頂き、それぞれの場所で説明をうけました。参加者からは同じ農業者だからその疑問や質問といったものが多く出され、活発な情報交換が出来ました



△設備を見学する機械銀行会員

③ 直営の直売所を有し、今が旬の野菜類が並べてあります



△直売所と枝豆の選果作業風景

あぶくま農学校『出前塾』

目黒区商工まつり

第五十三回「目黒区商工まつり」が、七月二十三日(土)、二十四日(日)の両日、目黒区民センターで開催されました。あぶくま農学校「農業経営実践塾」の実践の場としての「出前塾」に、塾生、事務局七名が参加し、角田の農産物等のピール、販売をしてきました。

例年は両日とも三十度を遙かに超す灼熱下の会場での販売でしたが、今回は風もあり適度な気温の中での販売となりました。また、例年同様、一張りのテントの中に商品陳列を行い、十時から販売を始めました。今年もトウモロコシ、トマト、きゅうり、なすなど、夏野菜はほとんど売り切ることが出来ました。



△販売の様子

今年から夏の『土の塾』に参加する、東京農業大学の学生がイベント販売の手伝いに来てくれることになり、更なる活性化を図ることができました。



△農大生による販売実習風景

目黒区消費生活展

平成二十八年十一月十二日に開催された第四十五回目黒区消費生活展のイベント販売に参加しました。

今年で八年目の参加になるのですが、今年度から秋のイベント販売の日がちが一日になってしまいました。天気に恵まれ持っていた農産加工物は今年の野菜高騰もあり、イベント開始と同時にほぼ完売してしまいました。売り上げには前年の二日分を一日で売り上げました。

秋のイベント販売にも夏同様に

東京農業大学の学生が手伝いに来てくれました。農大生からは夏と秋に農産物の販売が体験できる事は減多にない事なので貴重な体験が出来て良かったと言われたり、やはり人間生きていくには欠かせない食料なので生産から販売まで安心、安全じゃないと今の時代生き残れないですねと農家さんと話をしてる姿が見受けられました。



△商品を熱心にPRする塾生

東京都目黒区の小学生が稲刈りとホームステイを体験

月光原小学校・西根小学校

九月二十四日の土曜日に目黒区の月光原小学校有志の会の方々が西根小学校に稲刈体験に来ました。【その時の写真を紹介します。】



【その時の写真を紹介します。】



今年も『土の塾』開催！

農業に興味のある方、新たに農業をしたいという方を対象に、あぶくま農学校「土の塾」が八月十九日（金）から二十二日（月）の三泊四日の日程で、県外から五名、県内から一名、計六名の塾生が入塾し、百姓先生の家にホームステイしながら農作業を体験しました。初日の開塾式では、あぶくま農学校の副校長である佐山富夫角田市教育長より歓迎と激励のご挨拶を頂き、続いて角田市の小野隆男前副市長にもご挨拶を頂きました。



△開塾式での様子

開塾式終了後、講座①土の塾〇B勝川亮氏から大震災後の状況などの講話を受けた後、東日本大震災で原発事故での角田市の現状を理解してもらうため、市内見学として、稲作部門で「(有)角田健土農場代表小野健蔵氏」から当時の状況から現在までの取り組み等を講話していただいた後、畜産部門で「森谷畜産代表森谷茂氏」から

同じく当時の状況から現在に至るまでの講話をしていただきました。



△熱心に聞く塾生

続いて、ぱびハウスで夕食、そして対面式。その後、緊張した面持ちで塾生たちはホームステイ先に向かいました。

二日目、三日目の農作業体験は、塾生にとっては初めての体験とあって、悪戦苦闘し、汗だくになりながらも頑張っていました。



△農業体験の一コマ

また、三日目の夜は、慰労と情報交換を兼ねての「百姓講義」。塾生と百姓先生はもちろん、小松光一塾長をはじめ、東京農大の先生と明治学院大学の先生並びに関係者四名の参加を頂き、受け入れ先以外の百姓先生方の話しに耳を傾けたり、積極的に情報交換を行いました。四日目の閉塾式は、あぶくま農

学校の副校長でもある小松塾長からご挨拶をいただき、次いで修了証書を授与していただきました。閉塾式の後はレポートを作成し、土の塾は無事に終了。今回は東京農大生五名で、一般が一名でしたが、引き続き農大生四名は八月二十六日までファームステイすることになりました。今年の「土の塾」も暑さの中での開催でしたが、熱中症などの事故やけがもなく、無事に終了することが出来ました。ご協力いただいた百姓先生をはじめ、見学先の皆さま、関係機関のみなさまに御礼申し上げます。来年も「土の塾」にご支援、ご協力をよろしく願います。



△百姓講義の様子と閉塾式の様子・・・みなさん満面の笑みです

大友市長と農政を語る

～角田市農業経営者会議～

角田市農業経営者会議（伊藤稔会長）は、十月四日角田市民センターで、大友角田市長を招き市の農政課題などについて、昨年に引き続き農政懇談会を行いました。

この懇談会は当会の事業活動の一環として開催したもので、会員七名と角田市から大友市長のほか八巻産業建設部次長兼農政課長、小川農政課長補佐、渡邊係長が出席しました。

伊藤会長、大友市長の挨拶後、伊藤会長が座長となり、角田市の今後の農政、担い手の確保と育成、現状に対する対策及び園芸振興とその対策など四項目について意見交換が行われました。

市からは、暮らしと命を守る農業を基本理念に安全・安心・おいしい農畜産物の生産販売に取組んできており、今後も同じ考え方で農業の振興に積極的に努めるまた安全・安心な農畜産物の生産には資源循環型農業の推進や安定した農業経営には、園芸作物の産地づくりが必要と考えていると説明されました。

これらの説明を受けた後、十年後の担い手がいるのか心配である法人化に向けての支援、基盤整備のための取り組み、更には養豚の総合的な支援など会員からの要望を出して、活発な意見交換を行いました。

あぶくま農学校農業体験学習 〜稲刈り編〜

市内の西根小学校・北郷小学校・枝野小学校で「あぶくま農学校」を開校し、五月に田植えを行ったことは以前にお伝えしました。そして九月、稲穂の頭が垂れてきました。いよいよ稲刈です。

農業体験学習では稲を刈るときはもちろん鎌で刈ります。そこで、百姓先生たちが事前指導を行い、刈り取るタイミングも随時指導を行い怪我をしないように細心の注意を払って指導します。児童たちの手で刈っているときの真剣な表情、刈り終わった後の笑顔に充実感を感じました。

【九月二十四日 西根小学校】

西根小学校では、今年も目黒区の月光原小学校の有志の会の方々も参加し、両校の児童はお互いに教え合いながら、稲刈を行っています。



【十月一日 枝野小学校】

枝野小学校では目黒区の上目黒小学校の野々村剛副校長や教育委員会の事務局の方々四名も参加し稲刈を行った。



【十月六日 北郷小学校】

北郷小学校では前日に台風予報でしたが、児童の日頃の行いが良いので当日は晴天になりました。



上記三校は東京都目黒区の小学校と春、秋と農業体験を通し交流をしていましたが、先の震災以降学校間の交流は途絶えています。今年目黒区の方で交流事業に予算が出たとのことで、交流再開に光が見えてきた気がします。

第五回 かくだ酒まつり開かれる

おらほの美酒を育てる会（岸浪俊一会長）、角田市主催並びにみやぎ仙南農業協同組合共催で第五回かくだ利き酒三酒競技会「かくだ酒まつり」が、仙南シンケンファクトリーを会場に開催されました。午後五時の開会を前に、今や遅しと長蛇の列が出来ました。参加人数は、何と百四十五名！に達し、大盛況でした。

かくだ酒まつりは、角田地場産品を原料とした地酒、地ビール、梅酒を飲み比べながら角田食材の美味しい料理を楽しむ催しです。大友角田市長の開会のあいさつのもと進行されました。当日は、友好都市の目黒区からも参加いただき花を添えていただきました。

利き酒三酒競技会は、開始前から会場は熱気を帯び、参加者は自信満々の表情でした。

参加者は、全神経を味覚と臭覚に集中させ、普段では見られないような真剣な表情でティースティングしていました。

交流会では、角田食材の美味しい料理に舌鼓を打ちながら地酒、地ビール、梅酒を飲み干し真っ赤な顔で千鳥足の方も目立ちました。沢田研二のそっくりさんの「さわだけんしショー」が開催さ、青春時代の熱い情熱が甦り、会場はさながらサタデー・ナイト・大フィーバー状態でした。

最後に、協議会の表彰式が行われました。各部門とも高得点者が続出し大接戦でした。

【日本酒の部】

- (一位) 高橋賢臣
- (一位) 佐藤正俊
- (一位) 神田尚彦

【ビールの部】

- (一位) 仙石利幸
- (一位) 後藤悠
- (三位) 米山馨

【梅酒の部】

- (一位) 佐藤忠伸
- (二位) 菊地孝子
- (二位) 富田千鶴子
- (二位) 伊藤公雄
- (二位) 齋藤巧一
- (二位) 岸浪礼子
- (二位) 玉渕和紀
- (二位) 大沼寿宏

←酒まつりの様子

